

～JAこまち園芸団地構想に着手～

平成30年産を目途とする米の生産調整の見直しやTPP問題も相まって、米依存型農業からの脱却が急務となっています。秋田県内複数のJAでは既に園芸メガ団地(販売額1億円以上)に着手し稼働しています。このたび園芸団地育成事業の要件が緩和され、JAこまちでは「ネットワーク型園芸拠点育成事業」(75%補助)を活用し、平成29～30年の事業実施に向け、2品目の団地形成を進めています。

▶トマトを主体とするネットワーク型

湯沢・三輪地区において後継者及び新規就農者主体で構成されています。

人数内訳：湯沢地区5名、三輪地区4名
 合計作付面積：240a

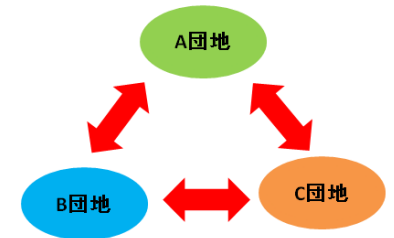
▶ネギを主体とするネットワーク型

概ね1億円を目指せるネットワーク構築が可能な状況となっています。

人数内訳：湯沢地区3名、駒形地区1法人、雄勝地区2法人
 合計作付面積：130a

【ネットワーク型】とは

- ・主要品目を複数の団地で共通して栽培し、生産・販売等で連携する形。
- ・販売額3千万円程度の団地を組み合わせ、1億円を目指す



◆JAの取り組み

- ・園芸団地事業の早期着工に向け、具体的な準備を行っています。
- ・今後想定される農地集積および流動の問題についてはJA出資型法人も対応します。
- ・JAが事業主体となり、担い手農業者にリースする形態をとり、自己負担金の軽減を図ります。

◆TACの取り組み

- ・将来的な家族経営の継承問題についての相談にのります。
- ・新規就農者へのバックアップ体制と支援を行います。
- ・担い手参画者の不安を解消するための巡回を強化します。

※園芸団地構想に興味・関心ある方、その他気になる事がある方は連絡をしてください。